

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
専門学校九州ビジュアルアーツ		平成9年3月31日		稲實 洋祐		〒 812-0011 (住所) 福岡県福岡市博多区博多駅前3-8-24 (電話) 092-474-9233																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人Adachi学園		昭和42年1月12日		安達 暁子		〒 101-0062 (住所) 東京都千代田区神田駿河台2丁目11番地 (電話) 092-474-9233																															
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	映像音響専門課程		音響学科		平成10(1998)年度	-	平成30(2018)年度																														
学科の目的	音響、照明、レコーディングや作曲、イベントプロデュースなど、音楽業界のさまざまな職種の特任技術者を養成。現場で使える技術を身につけ、プロ仕様の機材の扱い、実践的な技術と知識を習得し、音楽業界で即戦力となる人材を育てることを目的とします。																																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	学内外でのイベント実施を行いより業界現場に近い環境で学習ができます。姉妹校との共同イベントも多く、様々な現場を経験することができます。(昨年度中途退学率:10.5%)																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																													
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,920 単位時間	2,304 単位時間	5,280 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間																												
				120 単位	144 単位	330 単位	単位	単位	単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)		留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)																																
160人	116人		0人		0%																																
就職等の状況	<p>■卒業者数(C) : 65人</p> <p>■就職希望者数(D) : 59人</p> <p>■就職者数(E) : 55人</p> <p>■地元就職者数(F) : 23人</p> <p>■就職率(E/D) : 93%</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 42%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 85%</p> <p>■進学者数 : 4人</p> <p>■その他</p> <p>卒業後も就活継続。フリーランス。</p> <p>(令和4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 卒業後も就活継続。フリーランス。</p>																																				
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																				
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.kva.ac.jp/course/sound/">https://www.kva.ac.jp/course/sound/</a>																																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>7,584 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>384 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>384 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>384 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>									総授業時数	7,584 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	384 単位時間	うち必修授業時数	384 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	384 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	7,584 単位時間																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	384 単位時間																																				
うち必修授業時数	384 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	384 単位時間																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																				
総授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																				
うち必修授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																				
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>3人</p>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	3人	計	4人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人																																				
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																				
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																				
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																				
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	3人																																				
計	4人																																				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程の編成については、企業等と定期的に会議等を通じて意見交換を行い、編成・改善を行う。協議内容は、授業教科目の名称や授業内容・方法の改善・工夫をはじめ、写真業界の動向をふまえ、働くために必要とされる科目設定・授業内容等とし、授業方法は演習型授業(知識・技術)を主体に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校教育法第133条、並びに学校教育法施行規則189条、及び学校法人Adachi学園理事会の決議に基づき、教育課程編成委員会を置く。この委員会は、教育の質の保証及び改善をするため、専門学校九州デザイナー学院の教育活動の状況に関する評価を行い教育活動の更なる躍進の為活動をするものである。教育課程編成委員会が出された意見を基に、専任教員で行う学務会議で其々の意見を審議し、即時対応できるものは学科長がカリキュラムやスケジュールに落とし込む。校長及び学科担当者で、学科間の調整を図り、各学期の始めに行われる講師会及び各学科の分科会で、学校・学科の方向性を示し、授業に反映させていく。問題が生じた場合は随時対応し、より良いものに変更を加えていく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
稲實 洋祐	専門学校九州ビジュアルアート 学校長	平成31年4月1日～ 令和5年3月31日	
大番 隆史	専門学校九州ビジュアルアート キャリアマネージャー	平成31年4月1日～ 令和5年3月31日	
大野 涼子	専門学校九州ビジュアルアート 音響学科長	平成31年4月1日～ 令和5年3月31日	
田中 稔	専門学校九州ビジュアルアート 事務長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	
坂口 安政	株式会社九州共立 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	①
畑生 武士	九州地区照明音響舞台事業協会 会長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間2回開催(毎年5月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年10月25日(火) 17:00～18:20 オンライン開催

第2回 コロナウイルス第6派懸念のため中止

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回

質問:企業と学生のマッチングコーディネートについての状況について確認がなされた。

回答:ジョブカフェや業界EXPOなど学生と企業が会える機会は設けられている。コロナの発生前は学生一人当たり3社の対面方式が、リモートに変わったことで、20社以上の企業との接触が可能となった。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

授業方法は職業実戦的な演習型授業(実験・実習・実技)を主体的に行う。特に、産業界や職業人が求められる知識・技能や最新の音響全般についての知識・技術向上を目的とし、より業界の求める人材育成のために、企業の方に制作課題を設定して頂き、実践的な演習型授業を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

前年度、演習を担当した企業側の実習指導者と打合せし、実習中の生徒の課題を聞き取り、今年度の実習内容や難易度を調整する。実習前後には、学校側で企業派遣前の事前講義及び派遣後のフォローアップ講義を行うことで、企業側のモチベーションも高まり、学生に対しても良い影響を及ぼしている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ライブ音響基礎	多種類のPA機材の名称の習得と構造の理解。 音響業務のプランニング。	平井音響事務所
舞台照明基礎	多種類のスポットの名称の習得と構造の理解。 コンソール基本機能と操作の習得	有限会社
アイデアプランニング基礎	アイデアの引き出し方とプレストの重要性と学ぶ。 学内でオリジナル企画のイベントを実施する。	株式会社 西日本企画サービス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教育の質を客観的に保証するために、経済・産業界・放送業界の動向・人材需要に即し、最新の実務の知識・経験に基づく実践的な知識・技術を教授すべく適切に教員に対する研修等を、教職員研修規定により行なう。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ライブイベントTRIANGLE2022現場研修	連携企業等:	Zeep Fukuoka / LASPARK RESORT
期間:	2022年8月25日(木)～9月5日(月)	対象:	学生・教員
内容	このイベントは業界進出活動までを迷うことなく駆け抜けるための価値連鎖で結んでおり、学生と共に教員も現場との繋がりをもち、学校と企業を結ぶ重要な研修となっている。		
研修名:	舞台機構調整技能検定試験	連携企業等:	中央職業能力開発協会
期間:	2022年7月10日 日曜日 12月5日 日曜日	対象:	学生・教員
内容	本校が試験が試験会場となっていることから、協会関係者との協力体制のもと試験実施を行うことで教員のスキルアップを図れている。試験準備のため協会との打ち合わせ等を事前に行うことでの試験の流れを把握。		
研修名:	特別教育研修／フルハーネス型墜落制止用特別教育	連携企業等:	全国舞台テレビ照明事業協同組合
期間:	2023年3月30日 31日	対象:	学生・教員
内容	足場の組立て等特別教育。学生の資格取得の講習会の際、担当講師もスタッフとして参加し、例年との違いや内容確認の場としている。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	ハラスメント研修(動画教材・eラーニングコンテンツを使用)	連携企業等:	Adachi学園グループ
期間:	2022年8月1日(月)～8月5日(金)の期間内	対象:	教職員
内容	ハラスメントの理解を深め、個人と組織としてのハラスメント防止対策について身につけることを目的。		
研修名:	人権・同和研修	連携企業等:	福岡県・学事課、専修学校協会
期間:	2022年11月29日(火)15:00～16:30	対象:	教職員
内容	「人権尊重の理念」～「可能性」に伝えるために～ 水平社から同和教育、いじめ・人種差別など		
研修名:	人権・同和研修	連携企業等:	福岡県・学事課、専修学校協会
期間:	2023年2月15日(水)15:00～16:30	対象:	教職員
内容	パワーハラスメント防止措置の義務化 および改正育児・介護看護法 グループディスカッション		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	舞台機構調整技能検定試験	連携企業等:	中央職業能力開発協会
期間:	2023年7月	対象:	学生・教員
内容:	本校が試験が試験会場となっていることから、協会関係者との協力体制のもと試験実施を行うことで教員のスキルアップを図れている。試験準備のため協会との打ち合わせ等を事前に行うことでの試験の流れを把握。		
研修名:	特別教育研修／フルハーネス型墜落制止用特別教育	連携企業等:	全国舞台テレビ照明事業協同組合
期間:	2024年3月	対象:	学生・教員
内容:	足場の組立て等特別教育。学生の資格取得の講習会の際、担当講師もスタッフとして参加し、例年との違いや内容確認の場としている。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	人権・同和研修	連携企業等:	福岡県・学事課、専修学校協会
期間:	2023年11月28日	対象:	教職員
内容:			
研修名:	人権・同和研修	連携企業等:	福岡県・学事課、専修学校協会
期間:	2024年2月予定	対象:	教職員
内容:			

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、卒業生、企業等の関係団体、地域住民などの専門学校と密接に関係するものと理解促進や連携教育により学校運営の改善を図る。限られた時間を有効に活用するために、重点課題などを取り上げ、集中した審議を行っていく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	目的等に沿った運営方針の策定
(3) 教育活動	キャリア教育の視点に立った教育方法などの実施
(4) 学修成果	キャリア形成の効果を把握し学校の教育活動の改善
(5) 学生支援	卒業後の進路に関する体制の整備
(6) 教育環境	教育上または安全の十分な施設・設備の整備
(7) 学生の受入れ募集	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組み
(8) 財務	目的・目標に照らした有効かつ妥当な中期計画的な年度予算
(9) 法令等の遵守	法令と設置基準等の遵守と適正な運営
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献のための学校の教育資源や施設を活用
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己評価と関係者評価の評価差異がどこにあるのか、異なる点を吟味することで、問題点を抽出する。当然、関係者評価が厳しい場合は、本校が行なっていることが伝わっていないか、評価されていない点だと真摯に受け止め、改善・改良を加えていくことに尽きる。今年度は半導体不足に於けるPC等の機材導入状況や、大雨災害が頻発する中、有事の際の学校の備えなど、世情で問題視されている点に対し確認がなされたが、学校側の前向きな対応に安堵されていた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
平田 章裕	福岡県洋菓子協会	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	業界団体
荻田 英二	(株)荻田商業建築デザイン事務所	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	卒業生
田中 誠二	オリエンタルホテル福岡	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	卒業生
福島 眞祐	福岡市博多区博多駅前3丁目2区自治会	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	自治会長
藤 厚久	福岡県博多女子高等学校	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	学校長が必要と認められた者
藤井 亨	株式会社Too 福岡支店	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	学校長が必要と認められた者
小川 倫恵子	アミ・シュプール	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	卒業生
溝江 多佳子	株式会社イクティス	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	学校長が必要と認められた者
後藤 大輔	税理士法人アーク・パートナーズ	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	会計士
吉塚 正希	株式会社映像ボックス	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.kva.ac.jp/information.html>

公表時期: 令和5年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

URL: <https://www.kva.ac.jp/information.html>

公表時期: 令和5年10月31日

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材教養の目標・教育活動計画
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、卒業生数、卒業後の進路
(3) 教職員	各教員の担当科目、校務分掌組織等、教職員の研修・研究活動
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校・学科の行事(イベント)の取組とその評価結果
(6) 学生の生活支援	就職に関する体制、卒業生への支援体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い
(8) 学校の財務	事業報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.kva.ac.jp/information.html>

公表時期: 令和5年10月31日

授業科目等の概要

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ホームルーム I	自身の自己分析と業界・分野の理解を深める。現場で即戦力となる人材を目指す。	1通	64	4	○			○		○		
2	○			PA実習 I	PAの基礎的な知識・技術の習得。	1通	128	8		○		○				○
3	○			照明実習 I	ピンスポットの基本操作～複雑な操作フォローの習得	1通	128	8		○		○				○
4	○			マーケティング I	マーケティングの基本や考え方、重要性を理解する。理論、戦略を学ぶ。	1通	128	8	○			○				○
5	○			PT オペレーション I	PRO Tools 基礎知識 習得。操作方法と音声エフェクトについて	1通	128	8		○		○			○	
6		○		ライブ音響基礎	多種類のスポットの名称の習得と構造の理解。	1通	128	8		○		○				○ ○
7		○		舞台照明基礎	多種類のスポットの名称の習得と構造の理解。 コンソール基本機能と操作の習得。	1通	128	8		○		○				○ ○
8		○		アイデアプランニング基礎	アイデアの引き出し方とプレストの重要性と学ぶ。学内でオリジナル企画のイベントを実施する。	1通	128	8		○		○				○ ○
9			○	キャリアプランニング I	後期10月より就活準備が個々に自活で完成できるようにする。	1前	32	2	○			○			○	
10			○	キャリアプランニング II	大学生に負けないプロフ制作・オンライン面談準備完了。	1後	32	2	○			○			○	
11			○	ビジネスマナー	総合的な就活スキルを身に付ける。	1後	64	4	○			○			○	
12			○	ベクターワークス	ベクターワークスの基本操作の習得。	1後	64	4	○			○				○
13			○	イベント制作実践	イベント制作の流れと他部署との関わり方を実践的に習得。。実践的なイベントに向けて準備・検証を重ね、自身への課題設定を行う	1後2通	192	12		○		○			○	

授業科目等の概要

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
14			○	ホームルームⅡ	進路決定70%	2通	64	4	○			○	○			
15			○	ITBミキシング基礎	ITB (In The Box) ミキシングの基礎手法を学ぶ。	1通	128	8		○		○	○			
16			○	スタジオワーク基礎	レコーディングスタジオの仕組み、機材について学び、実際のレコーディングも実践してワークフローを身につける。	1通	256	16		○		○	○			
17			○	PTオペレーション基礎	世界標準のDAWである「Pro Tools」のオペレーションを、プロスタジオのワークフローに従って習得。	1通	128	8		○		○	○			
18			○	アンサンブルオペレート基礎	スタジオではなく、ライブホールでの生演奏の録音・音の扱い方について学びます。	1通	256	16		○		○	○			
19			○	音楽知識基礎	音楽業界で多様される業界用語や、音楽流通経路の理解。	1通	128	8	○			○			○	
20			○	PAスタッフワーク基礎	音楽の歴史や名盤名曲を知り業界のコミュニケーションツールを増やす。現場で求められる基礎技術の習得。	1通	128	8		○		○	○			
21			○	舞台知識基礎	各分野での幅広い知識の習得と芸術文化及び劇場への理解を深める。	1通	128	8	○			○			○	
22			○	電気概論基礎	舞台関連業務で必要最低限な電気に関する知識を習得。	1通	128	8	○			○			○	
23			○	検定対策	国家資格「舞台機構調整技能士(音響調整作業)3級」取得に向けての対策。	1前	64	4		○		○			○	
24			○	機器概論	アナログ機器、デジタル機器の知識・操作の習得。	1後	64	4	○			○			○	
25			○	制作演習Ⅰ	1年時終了までに就活にて有効となるポートフォリオの複数完成を目指す。	2前	32	2		○		○	○			
26			○	制作演習Ⅱ	1年時終了までに就活にて有効となるポートフォリオの複数完成を目指す。	2後	32	2		○		○	○			

授業科目等の概要

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
27			○	PA基礎	音響基礎知識・技術の習得。	1後	64	4		○		○				
28			○	TV照明	テレビ映像照明の基礎・業界一般常識の習得。	1通	128	8		○		○				○
29			○	マネジメント基礎	権利や著作権を理解しマネジメントスキルの基礎を身につける。アーティスト写真を例にプロデュースを実習で学ぶ。	1通	128	8	○			○				○
30			○	舞台知識	各分野での幅広い知識の習得と芸術文化及び劇場への理解を深める。舞台・ステージ運営や現場を仕切る感覚を身につける。	1通	128	8	○			○				○
31			○	デジタルベシック	Illustrator やPhotoshopの使い方を理解する。イベントテーマに沿った宣材物が作れるようになる。	1通	128	8	○			○				○
32			○	リクルート	就職活動早期化に対応できる。	1通 2通	256	16	○			○			○	
33			○	PA実習Ⅱ	PAの基礎的な知識・技術の習得	2通	128	8		○		○				○
34			○	照明実習Ⅱ	ピンスポットの基本操作～複雑な操作フローの習得	2通	128	8		○		○				○
35			○	マーケティングⅡ	マーケティングの重要性を理解し実習する。	2通	128	8	○			○				○
36			○	PT オペレーションⅡ	PRO Tools 基礎知識 習得。録音方法から制作実習。	2通	128	8		○		○			○	
37			○	ライブ音響基礎演習	スタジオではなく、ライブホールでの生演奏の録音・音の扱い方について学ぶ。	2通	128	8		○		○				○
38			○	ITB ミキシング	ITB (In The Box) ミキシングの基礎手法を学ぶ。	2通	128	8		○		○			○	
39			○	スタジオワーク	様々な音の特性やスタジオ用語を習得しスタジオアシスタントとしての力とレコーディングの実践によりワークフローを身につける。	2通	256	16		○		○			○	



授業科目等の概要

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
40			○	PTオペレーション	世界標準のDAWである「Pro Tools」のオペレーションを、プロスタジオのワークフローに従って習得する。	2通	128	8		○		○				
41			○	アンサンブルオペレート	スタジオではなく、ライブホールでの生演奏の録音・音の扱い方について学ぶ。	2通	256	16		○		○				
42			○	PAスタッフワーク	後輩への指導を通し、基礎的な知識・技術の確認。	2通	128	8		○		○				
43			○	Protools	Pro Tools基礎知識習得。	2通	128	8	○			○				○
44			○	舞台音響演習	機材管理の必要性の理解とメンテナンス技術の習得。各現場での音響業務の把握と現場状況に応じた対応力の習得。	2通	128	8		○		○				○
45			○	音響検定	仕込みからバラシまで時間内に行う。(個人検定)	2後	64	4		○		○				○
46			○	照明スタッフワーク	シュミレーターの習得。	2通	128	8		○		○				○
47			○	照明デザイン	様々な場所での照明演出の習得。	2通	128	8		○		○				○
48			○	舞台照明実習	ピンスポットの総合的な操作の習得、ムービング卓の基本操作の習得	2通	128	8		○		○				○
49			○	楽曲構成分析	楽曲構成の基本の理解と習得。	2通	128	8	○			○				○
50			○	照明検定	仕込み図の理解と調光卓の操作、決められた時間内での作業。(個人検定)	2後	64	4		○		○				○
51			○	Excel/Word	officeソフトの基礎知識・技術の習得	2通	128	8	○			○				○
52			○	企画制作実践	企画立案からプレゼンまでの流れを理解する。ライブハウスでのイベントを企画し実施。	2通	128	8		○		○				○

授業科目等の概要

#REF!															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
53			○ 舞台制作演習	舞台やイベントの概要を掴み、集客力や観客の満足度を意識したイベントの実施。実制作を通じてのシミュレーション能力の向上と実現までのプロセスのスキル化。	2通	128	8		○		○				
54			○ 運営手法実践	企画したイベント案が実際に運営できるかを分析しスケジュール化できる。効果的な宣伝方法とスケジュール感覚を身につける。	2通	128	8		○		○				○
55			○ アイディアプランニング実践	新たな演出方法を盛り込んだイベントを構築し実施。演出以外の部分にも様々なアイデアを盛り込んだイベントを構築し実施。	2通	128	8		○		○				○
56			○ 業界進出実践	業界就職に向けたティーチングと個別ヒアリングによる就職指導。	2通	128	8		○		○				○
57			○ 企業研修	国内の企業を研究し幅広い就活に向けた準備。	1後2通	672	42		○		○				
合計					57	科目		474 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 卒業規程単位の取得等、合格条件を満たすこと。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 各学期毎に行う試験、演習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。		1 学期の授業期間	16 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。